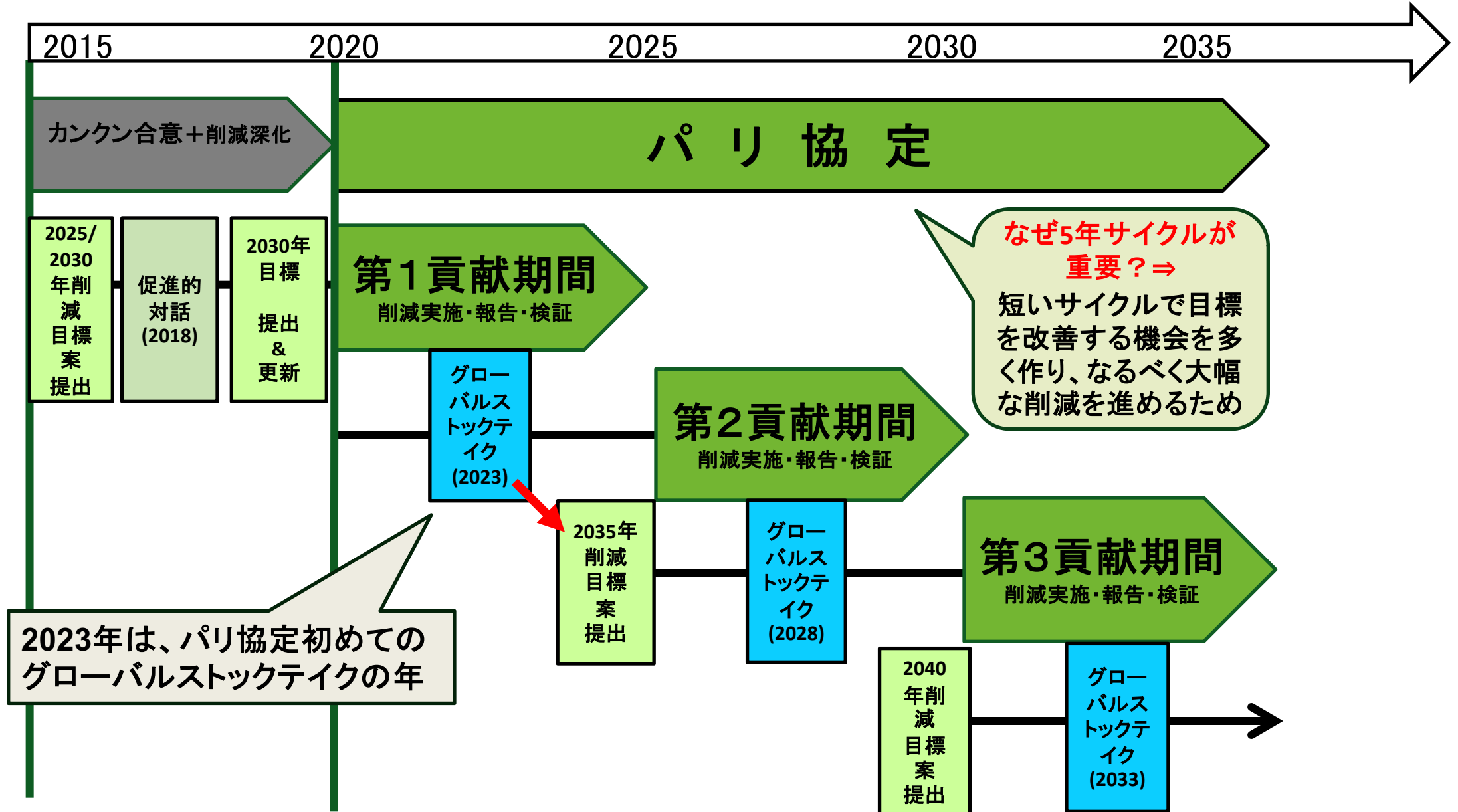


一目でわかるパリ協定！（科学と整合！）

1. 気温上昇を2度（1.5度）に抑えるために、今世紀後半に人間活動による排出をゼロをめざす目標を持つ初めての協定
2. 先進国・途上国問わずすべての国が削減に取り組むが、そのためには途上国への資金と技術支援を一部義務とした
3. 世界が本気で温暖化対策を進める意思を持つことを表すために、法的拘束力を持つ協定とした
4. ただし、厳しすぎて協定から抜ける国を作らないために、目標達成は義務としなかった
5. 目標達成を促すため、同じ制度の下で、算定・報告・検証させて、国際的に達成状況をさらす仕組み
6. 今の削減目標では2度は達成できないが、今後達成できるように、**5年ごとという短いサイクルで、目標を改善**していく仕組み
7. **主な対策を、各国に国内で整備することを義務**としており、多大なる宿題を各国に課している

*ただし、詳細ルールを多くを先送りしているため、今度の交渉で実効力を確保していくことが必要

パリ協定の目標改善サイクルの仕組み



グローバルストックテイク(GST) 科学的進捗評価

- ・パリ協定の掲げる目標に対して、世界全体でどの程度達成できたか進捗を科学的に評価する
- ・2023年COP28に初GSTの実施、以降5年ごとに実施(パリ協定14条2項)。
- ・GSTを構成する3つのステップ

(1)「情報収集と準備」: 国連機関の報告書などを基に、GHG排出量やその削減策の実態などについて、情報を取りまとめ

(2)「技術的評価」: 収集した情報を基に、パリ協定の長期目標が世界全体でどの程度達成されているかなどを、専門的・実務的見地から評価

技術的対話をまとめた統合報告書(Synthesis report by the co-facilitators on the technical dialogue)

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/sb2023_09_adv.pdf (2023/9/8発表)

GSTのアウトプットの各国政府の見解のまとめ(Views on the elements for the consideration of outputs component of the first global stocktake)

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/SYR_Views%20on%20%20Elements%20for%20CoO.pdf (2023/10/4発表)

(3)「アウトプット(成果物)の検討」: 各国がNDCや取り組みを強化できるように、技術的評価で得られた知見について議論を深め、**政治的メッセージ**を出す

2021年スタート

2022~2023年
技術的対話3回

2023年COP28決
定に入る成果は

注目ポイント:

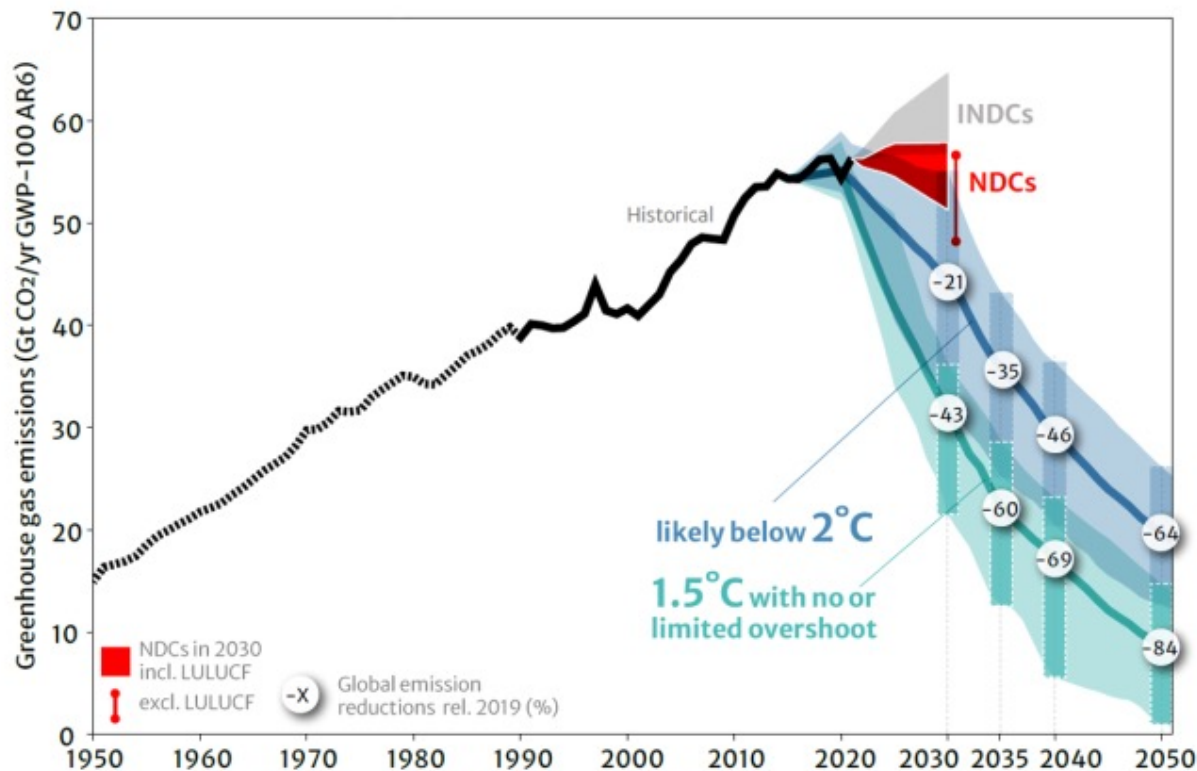
初めてのGSTを経て、世界が気候対策の具体的な強化に向けて動く内容になるのか？
特に**2035年NDC**に対するメッセージ、さらにまだ足りない**2030年NDCの引き上げ**は？

第1回グローバルストックテイク統合報告書

(Synthesis report by the co-facilitators on the technical dialogue)

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/sb2023_09_adv.pdf (2023/9/8発表)

緩和(削減)を中心としたい先進国に対し、「資金技術支援が先」と対立する途上国



- ・2022年6月から2023年6月にかけて、3回の「技術的対話」パリ協定の目標の達成状況について最新の情報に基づいた共通理解を得ることを目的
- ・緩和や適応、資金支援など17の重要な評価結果を提示

主な項目と内容

2: 政府は気候適応力と低GHG排出の発展を主流化するシステム変革を支援すること。その強化のためには**非国家アクター**による信頼性のある、説明責任のある、透明な行動が必要

4: 世界の温室効果ガスの排出は、パリ協定の気温目標と一致していない。**1.5度目標達成**に野心を高め、削減約束を実行するための時間枠は急速に狭まっている

5: 2030年までに世界のGHGをを43%削減(2019年比)、**2035年までに60%削減**し、2050年までに世界的にCO2排出をゼロにするために、はるかに大きな行動と支援、NDC強化が必要

6: CO2および温室効果ガス(GHG)排出のゼロに達するためには、**再生可能エネルギーを拡大し、排出削減策のない化石燃料を段階的に廃止**することを含む、すべてのセクターと状況でのシステム変革が必要。森林伐採終結、非CO2ガス削減、供給と需要の両面からの対策の実施を含む

電化、エネルギー効率および需要側の管理、エネルギー貯蔵も、ネットゼロエネルギーシステムにおける重要な要素

13: **適応支援と損失と損害の回避**、最小限化のための資金手当ては、**拡大し、革新的な資金源**が必要。

	Reductions from 2019 emission levels (%)				
	2030	2035	2040	2050	
Limit warming to 1.5°C (>50%) with no or limited overshoot	GHG	43 [34-60]	60 [49-77]	69 [58-90]	84 [73-98]
	CO ₂	48 [36-69]	65 [50-96]	80 [61-109]	99 [79-119]
Limit warming to 2°C (>67%)	GHG	21 [1-42]	35 [22-55]	46 [34-63]	64 [53-77]
	CO ₂	22 [1-44]	37 [21-59]	51 [36-70]	73 [55-90]

COP28(2023年アラブ首長国連邦)の注目点

1. 【COP内】初グローバルストックテイク
 - ・**2035年目標** 2035年に60%(2019年比)削減(IPCC)に対する強いメッセージが出るか
 - ・緩和のみならず、適応・資金技術支援等全ての項目の進展(途上国と先進国の対立点)
2. 【COP内外】事実上**2030年削減目標の強化**につながる取り決めができるか
 - ・化石燃料段階的削減の合意？
 - ・再エネ3倍目標？エネ効率2倍目標？
 - ・議長によるエネルギー企業の削減約束イニシアティブ？
 - ・その他国連や非国家アクターによる削減強化イニシアティブ？
3. 【COP内】**損失と損害の資金支援組織**の立ち上げをはじめとする途上国への資金支援
 - ・損失と損害の組織的アレンジメント、資金源の議論
 - ・適応基金の倍増
 - ・年間1000億ドル支援の約束達成、2025年以降の資金動員額

温暖化の基礎から全体像を知りたい方に！ 小西雅子著



温暖化対策＝エネルギー選択
エネルギーを選んで、将来社会を選ぼう！

地球温暖化を解決したい
岩波ジュニアスタートブックス(2021)

<https://www.iwanami.co.jp/author/a120076.html>



パリ協定をめぐる温暖化の全体像について
ぱっとわかりたい方へお勧め！

地球温暖化は解決できるのか
岩波ジュニア新書(2016)



気候変動政策をメディア議題に
～国際NGOによる広報の戦略～
ミネルヴァ書房(2022)

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b600274.html>